

令和元年 12 月 16 日  
仙 台 管 区 気 象 台

## 地方気象台における目視観測通報を自動化します

これまで地方気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、職員が目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、東北地方の地方気象台において、目視観測通報を自動化します。

なお、仙台管区気象台では、従前どおりの目視観測通報を継続します。

- 1 変更予定日  
令和 2 年 2 月 3 日
- 2 対象となる気象官署
  - ・ 青森地方気象台
  - ・ 盛岡地方気象台
  - ・ 秋田地方気象台
  - ・ 山形地方気象台
  - ・ 福島地方気象台
- 3 変更点等  
別紙のとおり

本件に関する問い合わせ先

気象防災部観測課 主任技術専門官 佐藤

Tel 022-297-8106

## 地方気象台における目視観測通報の自動化について

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した、総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、地方気象台における観測のあり方について、見直しを図りました。

東北地方の地方気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測すると共に、職員が目視により、晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測した結果を、毎日定められた時間に気象観測通報として発信しています。

これについて、令和2年2月3日（予定）より、東北地方の地方気象台では、職員が目視により行っている観測を自動観測へ移行することとしました。これに伴い、一部の大気現象等は、観測を終了します。

なお、仙台管区気象台では、従前どおりの職員による目視観測通報を継続します。

### ■ 自動観測に移行する観測種目

- 以下の大気現象については、職員による目視観測から自動観測に変わります。
- 視程（見通しのきく距離）も、新たに視程計を設置して自動観測します。
- 雷は、これまで職員が目視や聴音により観測していましたが、雷監視システム（LIDEN）と気象レーダーのデータを用いた自動観測に変わります。

〈今後、自動で観測する天気や大気現象〉



晴, 曇, 雨, 雪, みぞれ, 霧, もや, 煙霧, 雷



### ■ 目視観測通報の自動化に伴い観測を終了するもの

#### ● 天気

快晴、薄曇

#### ● 大気現象

現象の分類	目視観測通報の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	雪あられ, 氷あられ, ひょう, 細氷, 凍雨, 霧雪, 着氷性の雨, ふぶき, しぶき, 霜 <sup>(注)</sup> , 結氷 <sup>(注)</sup> , 竜巻, 積雪, 冠雪 <sup>(注)</sup>
大気じん象	黄砂, 煙, 降灰, 風じん, 砂じん嵐, じん旋風
大気光象	かさ, 光冠, 彩雲, にじ
大気電気象	電光, 雷鳴

(注)  
寒候年（前年8月～当年7月）に初めて観測する霜、結氷、冠雪は従来どおり初霜、初氷、初冠雪として記録します。

#### ● 雲

雲量、雲形